

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日		2025年6月30日
【基礎情報】	日本語の名称	モナーコイン（モナコイン）
	現地語の名称	Monacoin
	呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	モナ
	ティッカーコード（シンボル）	MONA
	発行開始（年、月、日）	2014年1月1日
	時価総額（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$13,376,172
	時価総額（円基準、例：¥100,000,000）	¥1,937,003,440
	主な利用目的	送金、決済、投資
	利用制限の有無	－
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	－
	利用制限を行う者の属性	－
	利用制限の内容	－
	一般的な性格	日本および世界で有名なアスキーアート「モナー」をモチーフにした日本初の暗号資産になり、非中央集権によるクライアントプログラムによって維持される完全分散型決済システムを基盤とした暗号資産。
	法的性格（資金決済法第2条第14項第1号、第2号の別 例：第1号）	第1号
	2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	－
	発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	－
	発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	－
	支払請求（買取請求）による受渡資産	－
	発行者が保有者に付与するその他の権利	－
	発行者に対して保有者が負う義務	－
	価値の決定	保有者間の自由売買による
	交換（売買）の制限	－
	価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン
	保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開
	保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する	
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Proof of work	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	LTC	
取引単位の呼称	m MONA = 0.001 MONA	
保有・移転記録の最低単位	1 watanabe (0.00000001 MONA)	
交換可能な通貨又は暗号資産	全て可	

交換制限	交換制限	—
	制限内容	—
	交換市場の有無	あり
〔連動する資産の有無等〕	価値が連動する資産等の有無	—
	価値連動する資産等の名称	—
	価値連動する資産等の内容	—
	価値連動する資産との交換の可否	—
	価値連動する資産との交換比率	—
	価値連動する資産との交換条件	—
〔付加価値〕	その他の付加価値（サービス）の有無	—
	付加価値（サービス）の内容	—
	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	—
【発行状況】	発行者	—
	発行主体の名称	プログラムによる自動発行
	発行主体の所在地	—
	発行主体の属性等	—
	発行主体概要	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理
	発行暗号資産の信用力に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ・ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 ・保有・移転管理台帳の公開 ・暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性
	発行方法	初期発行と、分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産
	発行可能数	105,120,000 MONA
	発行可能数の変更可否	可
	変更方法	発行プログラムの変更
	変更の制約条件	—
	発行済み数量	94,951,149MONA(2025/5/20)
	今後の発行予定または発行条件	<ul style="list-style-type: none"> ・採掘者は1ブロック発掘するごとに12.5コインが与えられる（2026年に半減期予定） ・この数は約3年ごとに半減する（1,051,000ブロックごと） ・Monacoinネットワークでは約105,120,000枚のMonacoinが生成される事になる
	過去3年間の発行状況	—
	過去3年間の発行理由	—
過去3年間の償却状況	—	
過去3年間の償却理由	—	
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	—	
監査を実施する者の氏名又は名称	—	

	直近時点で行われた監査年月日	—
	直近時点における監査結果	—
【 価 値 移 転 記 録 台 帳 に 係 る 技 術 】	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その	—
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—
	価値移転認証の仕組み	・台帳形式
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
	価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）および記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する。
【 価 値 移 転 の 記 録 者 】	記録者の数	104 https://monacoin.trance-cat.com/nodes.php
	記録者の分布状況	主に日本
	記録者の主な属性	誰でも自由に記録者になることができる
	記録の修正方法	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う
	記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	—
	監査を実施する者の氏名又は名称	—
	直近時点で行われた監査年月日	—
	その監査結果	—
	(統括者に関する情報)	—
	記録者の統括者の有無	—
	統括者の名称	—
	統括者の所在地	—
	統括者の属性	—
統括者の概要	—	
【	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳を改竄すること発行プログラムを改変することができる
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	—
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に	—

暗号資産に内在するリスク	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 一旦、分岐したブロックの一方が否決された場合、否決されたブロックに収録された取引は再び認証を得なければ、次の送金が行なえなくなる 記録者の目に留まらず、未承認データのまま放置される恐れあり
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	現時点ではプログラムが適正に機能し、所有データの改竄、不正取引、モナコインの複数同時保有する状況などの不適切な状態に陥ることを排除しているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	2014年に、ブロック難易度の調整不具合でブロックチェーンの同期が遅延するなど影響がでたことで、アルゴリズムを変更した
	非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	世界に先駆け2017年3月にsegwit対応のシグナルを開始し、1週間程度のロックイン後、コードをメインネットにデプロイし、世界初のActivate化
	今後の非互換性アップデート予定	半減期（2026年予定）
流通状況	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	2018年5月に、セルフフィッシュ・マイニング攻撃（Block withholding attack）を受け、ブロックチェーンの大規模な再編成（reorg）が発生
	価格データの出所	出所：Zaif Orderbook trading
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$0.1409
	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000,000）	¥20.40
	ドル/円計算レート 2025年6月30日基準	144.81
四半期取引数量	2025年4月～6月 ¥710(百万円) 出所：CoinMarketCap URL： https://coinmarketcap.com/ja/currencies/monacoin/historical-data/	
付帯条件・付言	付帯条件	—
	付言	①51%攻撃被害の実績に照らし、適切なモニタリング（マイナーの分布状況推移や脆弱性への対応等の確認、ジャッジノードの取扱い動向を含む）の実施やこれに基づく利用者情報提供、利用者保護を図るべきこと。
備考		—